

ヴォリュームアキュライザーの導入(13)

—Brooklyn DAC+への適用—

1. 始めに

前報(12)に引き続き、Brooklyn DAC+に適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

今回は、Brooklyn DAC+のヴォリュームにおけるVRA-7の効果を確認します。

VRA-7を貼る前は、レゾナンスチップを貼っていますが、これを除いてVRA-7に張り替えます。



TruPhase以降は、前報(2)と同様の経路ですが、音源の再生は次のようなルートで行い、Brooklyn DAC+からTruPhaseに入力します。

即ち、入力をUSB、SDIF-3、アナログライン入力と替え、さらにBrooklyn DAC+

のヴォリュームは、デジタルヴォリュームとアナログヴォリュームを切り替えます。

USB 入力の CD 再生

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+

SDIF-3 入力の BS 放送録画再生

DMR-UBZ1→Sonica DAC→DA3000→Brooklyn DAC+

アナログライン入力のアナログ再生

Garrad 401→(フォノケーブル)→My Sonic Stage1030→(RCA ケーブル)→

マランツ 7 タイプキットプリアンプ (フォノ入力→アンバランス出力端子)→(ア

ンバランスケーブル)→Brooklyn DAC+ (ライン入力)

音源は、聴きなれたものを選定します。なお、CD と BS 放送録画は演奏会で聴いてきたものを選定しました。

CD

ベートーヴェン ピアノと管楽器のための 5 重奏作品 16

アンサンブルディアローギ

Harumonia mundi HMM925296

BS 放送録画

ベートーヴェン ピアノと管楽器のための 5 重奏作品 16

アンサンブルディアローギ

アナログ再生

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020

J.S.Bach チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の試聴結果

Brooklyn DAC+の位相切り替えは、デジタル音源では、これまでの経験から正相としました。また、アナログのライン入力では、これまでの経験から逆相にします。また、Brooklyn DAC+のヴォリュームは、アナログアテネーターとデジタルアテネーターが切り替えられますので、両方について確認しました。

CD と BS 放送録画は、演奏会で聴いてきたピアノフォルテと 4 つの木管の古楽アンサンブルの演奏曲です。

アナログアテネーターとデジタルアテネーターが切り替えでは、後者の方が、若干エッジが効いて細かい音がしていますので、デジタル音源再生では常用としていま

す。

VRA-7を Brooklyn DAC+のヴォリュームに貼りましたが、CDとBS放送録画ともに、またアナログアテネーターとデジタルアテネーターとも、ほとんど音の違いは聴き取れませんでした。

アナログ再生のライン入力では、アナログアテネーターとデジタルアテネーターの切り替えでは、後者はややハイ上がりに聴こえ、前者の方が、ふくよかでアナログらしい音がしています。

VRA-7を Brooklyn DAC+のヴォリュームに貼りますと、劇的というほどではありませんが、音の肌理が細かく、伸びやかで張りがでてきますし、音場感も向上します。念のためVRA-7を剥がしますと、肌理の粗さが出て、表情に乏しくなります。再び貼り付けますと、元の表情が戻ってきます。

4. まとめ

Brooklyn DAC+のヴォリュームへの適用により、デジタル音源のUSB入力とSDIF入力の再生におけるVRA-7の効果は認められませんでした。アナログライン入力の再生におけるVRA-7の効果は、劇的というほどではありませんが、十分に認められると言っていいと思います。

以上